

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100230		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通西 2階すずらん館		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4-64		
自己評価作成日	平成28年3月1日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にとって一番大切な御家族様が気軽に立ち寄れる場所であり、常に御家族様と職員が入居者様を共に支えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0190100230-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0190100230-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成28年3月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり大通西」は、札幌市の中心部に位置し、地下鉄「西11丁目駅」から大通公園に面して、徒歩5分ほどの商業地域に建っている。7階建ての2・3階が2ユニットのホームで建物内の同一法人事業所の利用者と催し等で交流している。大通公園が近いので、居間の窓からも豊かな自然の四季や、人々が行き交う様子を眺めて楽しんでいる。公園のバラ園で咲き誇る花を觀賞したり、散歩中の保育園児や訪れている人々と触れ合っている。開設4年目を迎えて、今年の1月に管理者の交代があり、前任の管理者に相談しながら運営を引き継いでいる。法人研修の他、事業所内でも職員が資料を準備し、年間を通しての勉強会を検討している。法人の事業所間で、看取りを実施した体験を相互に学ぶ機会を取り入れており、事業所も家族の希望に沿って看取り介護を行っている。個々のニーズに沿って何がよいのか、管理者と職員は毎月の会議や日々の話し合いを基に、介護計画に反映させて取り組み、職員間の協力で入浴や排泄のケアを工夫している。その積み重ねがケアの質的な向上に繋がっている。家族の意向に沿ってケアの方法を検討したり、音楽しんだコンサートの鑑賞に向けて体力的な維持を徐々に作りながら参加するなど、ニーズを見極めながら個別の支援を職員間で熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大通公園を取り囲む地域のなかで、常に入居者様に寄り添いながら理念を共有している。	「大通公園の四季を感じながら、地域の方々との多くの縁を大切に、入居者様に寄り添い、愛が満ち溢れたホームを目指します。」との理念を共有し、大通公園を散歩したり、利用者の個々の想いに沿って温かいケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流まで至っていないが近隣の方に運営推進会議の案内をしたり、地道な活動を続けている。	数カ所の保育園児も大通公園を散歩しているので、会うのを楽しみにしている。近隣のコンビニエンスストアや電車通り沿いの商店で買い物をしている。専門学校の実習生を受け入れており、外部の人と触れ合う機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後、ご家族様や地域包括支援センターの職員の方から出た意見や要望等は管理者からスタッフへ伝え、ケアの向上に努めている。	今年度は会議を5回開催し、運営状況などの報告の他、協力医の参加を得て終末期について学んでいる。地域包括支援センターの担当者や、「まちづくりセンター」長に、町内会代表としての参加がない事情を相談しているが難しい状況にある。	今後も地域代表として、運営推進会議に参加が得られるような働きかけを期待したい。近隣住民を行事に招待したり、関係者への相談など、地道な働きかけを継続して町内会との関係作りを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡会議に出席できている。	介護認定の結果が不明な時は、区役所に出向いて介護報酬の取り扱いを相談することもある。地域包括支援センター担当者に事例を相談したり、認知症勉強会についてアドバイスなどを得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の安全性上、施錠されているが、身体拘束については職員は研修で学んでいる。今後も定期的に繰り返し学習するよう検討している。	法人で設置している「身体拘束・虐待防止委員会」の勉強会に参加した職員が報告したり、資料の閲覧で内容を共有している。ケアの方法を話し合う中で、身体拘束の禁止項目にも触れている。今後は研修計画を基に更に学ぶ機会を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において学習している。又、事業所内部において事故防止委員会も開き、都度意識を高め防止に務めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は詳しく学ぶ機会が今のところなく、その必要性を理解するに至っていない為、勉強会を開きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけでなく、書面においても説明をしながら理解に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今後、検討します。	家族の来訪時に、じっくり話し合い、些細な意見なども聴いている。家族の意向に沿って職員間でケアの方法を具体的に話し合い実践している。連絡事項や意見などは個別の連絡ノートに記載している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、機会を設けており開設後も既に半年に一度のペースで実施している。	毎月ユニット会議で、利用者の状態やケアについて意見を交換している。1月からテーマに沿って資料を作り、勉強会を行っている。徐々に、2ユニット全体会議での研修会を考えている。職員は利用者担当など、各担当制で業務を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々との面談を行い働きやすい環境を目指して。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット内で勉強会を始めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今のところは交流はない。今年は年間行事などで交流可能な範囲で実施できればと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りを前提に詳細な情報を得ることで、思いを理解するよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここの入居に至るまでの様々な不安・困り事を受け止めた上で、ご本人にとって最も良い方向へ導けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と介護支援専門員が中心となり御本人・家族に面談し状況把握に努め支援の方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	直接生活場面で力を発揮できない方が増えてしまったが、スタッフへ感謝を伝えて下さる利用者様が多く、その言葉や想いに支えられ仕事ができている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が一番の介護者である事を十分理解し常に情報を交換することで御本人も安心出来る様共に支援する立場である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会も多く、交通便の良さが影響している。	以前に住んでいた近所の方が遠方から来訪するなど、馴染みの関係を継続して支援している。家族の協力で墓参りや法事に参加したり、一泊旅行に出かける方もいる。昔の思い出もあり、日々眺めている大通公園が馴染みの場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解した上で利用者同士が円滑に関われるよう仲介に入り親しく出来るよう全員参加できるレク活動等行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療の為、退去に至った方が入院先から帰ってくるに当たりその受け入れ先の施設を調べるなどしてご家族様に案内等を実施。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談の時から、御本人、又はご家族様には生活に対する意思を確認しており計画書に取り入れている。	会話が可能な利用者の意向を確認したり、難しい場合は普段の様子や表情から読みとっている。センター方式のシートを6か月ごとに更新し、新しい情報を追記して現在の状態を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族様からの情報と入居前に利用していたサービスの担当者への連絡を密にしてその把握を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムを理解し体調を考慮しながら力量を生かすよう務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回、ケアカンファレンスを実施して意見交換をしている。又、ご家族が面会に来られた際にも情報交換し計画に役立っている。	会議での意見交換を基に、3か月毎に評価を行い、更新計画を作成している。センター方式のアセスメントシートなどの情報や家族の意向を確認して計画書に反映させている。ニーズとサービス内容を意識して、日々の記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも細かな関連する情報にはノートに記載することが日常的になっており出勤時、業務前に確認印を示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の際や外出の出入りの際など事業所内一階のデイサービスの職員などが支援するなど安心出来る体制が確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な身体状況があるが、大通公園の景観は存分に満喫できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人の状態を十分把握した上でご家族様共話し合い受診に至っており、その時の指示経過なども共有している。	意向に沿って、協力医療機関の訪問診療を9割の方が受けている。かかりつけ医や専門的な受診は家族が対応しているが、必要な時は職員も同行している。個別の「受診・往診記録」に結果を記載し、連絡事項などは個別のノートに記録している。	



グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、専任の訪問看護師が入る為、1週間の体調と精神的な変化についても報告し、看護師からのアドバイスなども受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカー・看護師と連絡強化したり病院へ出向くなどして対応に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年、初めて看取りを無事おえることが出来ました。	利用開始時に、重度化の対応と看取り指針を文章で説明し、看取りを行う段階で「看取り介護に関する同意書」を交わしている。法人内で看取りを実施した事業所の体験を相互に学び合う機会を作り、事業所も看取りの経過を資料で提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議などで話し合い、マニュアル化している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した訓練を定期的実施することで、マニュアルを見直したり、より効率的に、かつ安全に配慮し人命救助を重視するよう務めている。	昼夜間を想定した避難訓練を実施している。周囲が商業地域で夜間は無人となるので、消防署の指導もあり、夜間の避難を事業所内で徹底して取り組んでいる。地震想定訓練は消防署に相談している。	次年度には消防署指導の下で、地震からの火災発生を想定した訓練を検討しているため、地震対策のマニュアルを整備し、安全面の確認を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り個々の尊厳を重視しております。	生活歴により本人にとって嫌な言葉、好む言葉を把握し、言葉かけをしている。申し送りでは、固有名詞を使っていない。記録は、扉のある戸棚に収納している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ささやかな事ではあるが、起床の際、日常着を自ら選択出来るよう声掛けしたり、おやつ時の飲み物の希望を確認したりはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間については個人のペースや体調を考えている為、朝食もそれに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。近所の美容室への同行も実施。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方にとって暮らしの中での役割を重視しながら介助を受けるだけの関係ではなく共に生活を支えて成り立っていることを目指している。	法人の管理栄養士の献立と食材配達を利用している。誕生日は、本人の好きな食事を提供している。重度化により準備することは難しいが食器拭きはできるので、一緒にしている。また、個別の夕食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事量・水分量を記録に記入し日々の変化がないかを常時考慮し、主治医と連携を図りながら体調維持に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは全員実施している。磨き残しがないかなど歯間ブラシなども利用しながら職員が介助することが多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケース記録に排泄時間を記入したことで、排泄パターンを読み時間ごとの誘導することによって失禁を減らすよう支援している。	利用者全員の排泄チェック表を作成している。それに基づき、随時トイレでの排泄を介助している。一人ひとりの心身の状態に応じて布パンツや尿取りパッド、リハビリパンツなどを使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物で工夫したいが食材サービスを利用しているため限りがある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後2時から5時の間、毎日入浴できる準備を整えている。その中で個々のタイミングに応じて入浴して頂いている。	本人、家族の同意を得て異性介助をすることもある。一人ずつ湯を入れ替えており、週2回以上は入浴している。嫌がる人には、入りたい気分を見逃さずタイミングをみてお風呂に誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、あまり入眠出来ない方には起床時間をづらしたり、日中休息出来るような働きをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月2回薬局から届く薬の説明書きを職員は目を通し理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いなどで役割りを持ってもら一方で体操や合唱等、全員が集まって楽しむ時間を作っている。又、個別外出などで気分転換することを行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿う事は職員体制や他の協力を得る努力をしてないため実行していない。あらかじめ予定を立てての外出はしている。	夏季は、向かいにある大通公園のバラ園に散歩に出かけている。立地の利便性を活かし、近くのコンサート会場で演歌歌手の歌を楽しむこともある。円山公園の花見は恒例の外出行事となっている。また、玄関の横に作った花壇を見ながら外気浴をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持し使える方はいない。さまざま精神的不安などを抱える方も多いので所持は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話もご本人から要望することが出来ない方が大半である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関については、エレベーターを使用しなくては1階へ降りれないので理解しにくく不快と思う。共用空間のスペースが手狭まなので移動は安楽であるがゆったりとした空間ではない。	対面キッチンから食堂兼居間を見渡すことが出来る。ロールカーテンにお雛様の絵を貼り、季節感を採り入れる工夫をしている。大通公園が見える窓から自然光が入り、明るい共用空間となっている。廊下には、行事の写真や利用者の作品などが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限りあるスペースの為、独りになれる場所はない(居室以外)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込むケース少なく残念であるが、見慣れているベッドカバーや写真など持ち込み、本人が安心出来る工夫をしている。	筆筒やテレビなどの家具や家族の写真、本、雑誌、観葉植物などを持ち込み、馴染みのある物に囲まれた生活をしている。家族が様々な装飾を施し、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	複合施設の為、混乱する環境ではと、心配しているが、今のところ大きな問題はなく、手すりや照明等全面に設置されている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100230		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり大通西 3階らいらっく館		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4-64		
自己評価作成日	平成28年3月1日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様と職員が共に入居者様が安心して暮らさしを目指し協力し合っている。
--------------------------------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0190100230-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0190100230-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が自分らしく生活できるためにどのように支援していくかを職員間で話し合い事業所独自の理念をつくりあげている。愛情を持って利用者様に接しており、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1回施設で開催している夏祭りのイベントも地域の方にも一緒に楽しんでいただけるよう働きかけしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回4回目が終了、今後も沢山意見を確認したいです。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点等は電話にて連絡し、札幌市で開催されている、連絡会議に出席し協力関係を築ける様取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の安全性上、施錠されているが、身体拘束については職員は研修で学んでいる。今後も定期的に繰り返し学習するよう検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において学習している。又、事業所内部において事故防止委員会も開き、都度意識を高め防止に務めている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は詳しく学ぶ機会が今のところなく、その必要性を理解するに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には御家族様、御本人様の疑問点や不安、要望等をしっかり聞く時間を十分にとり、納得された上で、手続きを進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会はない。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回、機会を設けており開設後も既に半年に一度のペースで実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績を把握し、向上心を持って働ける様、評価してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は定期的実施され職員は参加できている。法人外は、個人参加はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ実施できていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係作りを前提に詳細な情報を得ることで、思いを理解するよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここの入居に至るまでの様々な不安・困り事を受け止めた上で、ご本人にとって最も良い方向へ導けるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と介護支援専門員が中心となり御本人・家族に面談し状況把握に努め支援の方向性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の長年の経験を生かして活躍の場を作り尊敬の思いを言葉で伝え互いに良好な関係となっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本当に御家族様が面会に来られる頻度が多くそのため情報共有や意思確認が取れやすい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人様の友人や知人の方は時々面会に来られ、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解した上で利用者同士が円滑に関われるよう仲介に入り親しく出来るよう全員参加できるレク活動等少人数でも楽しめるようなぬり絵やパズルも行なっている。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療の為、退去に至った方が入院先から帰ってくるに当たりその受け入れ先の施設を調べるなどしてご家族様に案内等を実施。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談の時から、御本人、又はご家族様には生活に対する意思を確認しており計画書に取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主にご家族様からの情報と入居前に利用していたサービスの担当者への連絡を密にしてその把握を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在、精神面、体調面を重視した生活リズムが主である。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様の意向を日々の生活の中から聞き取りや、言動から読み取り、1ヶ月に1回、ケアカンファレンスを実施して意見交換をしている。又、ご家族様が面会に来られた際にも情報交換し計画に役立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録以外にも細かな関連する情報にはノートに記載することが日常的になっており出勤時、業務前に確認印を示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスが多機能化するほどの取り組みは出来ないがその方に合った支援方法を常に考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	目の前の大通公園を眺め四季を感じ豊かな気分で過ごせていると感じます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人の状態を十分把握した上でご家族様共話し合い受診に至っており、その時の指示経過なども共有している。		



グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、専任の訪問看護師が入る為、1週間の体調と精神的な変化についても報告し、看護師からのアドバイスなども受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会に行く機会を多くし、病院関係者との情報交換や御本人様の状態を把握し、早期退院できる様に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	大通西で行った看取りを法人内の各事業所で看取り研修として開催している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアル通り実践しており、管理者、かかりつけ医との連絡体制も取れている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した訓練を定期的を実施することで、マニュアルを見直したり、より効率的に、かつ安全に配慮し人命救助を重視するよう務めている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、各個人に合わせた声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人差もあるため出来る限り表情よく笑顔が見れる様心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体力や体調に合わせて、休む時間を設けてその日その日でペースをご本人の状態に合わせて対応を試みている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。日常着はその方の好みを考慮し選択してもらってます。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に準備することが難しいので片付けはお願いしているが特定の方のみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事量・水分量を記録に記入し日々の変化がないかを常時考慮し体調維持に務めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に口腔ケアの声掛けを行い、利用者様個々の能力に合わせ介助し歯科衛生士が入っている方も多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンがわかるようにケース記録に排泄チェックを記入し、利用者様のリズムに添った支援を心かけ、トイレでの排泄が出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や朝に牛乳を飲んで頂く等している。一人一人の排便のリズムに合わせて、腹部マッサージや体操を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在2人介助で入浴される方も増えており、その場合職員の都合が優先する時もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調を把握しながら、休憩時間を確保し、日中の活動量を増やし、夜間の安眠へ繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から届く処方箋を個人ファイルに綴り、職員は服薬内容等、副作用についても理解、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限りみんなが楽しめるよう支援しているが役割を持ってもらえるような現状ではなくなっている。混乱しないよう努めております。		

グループホームみのり大通西

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階らいらっく館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行能力の低下で限られた方の外出になったり、外出することで混乱が激しなど様々な精神状態の変化もありその機会は少ない		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	さまざまな精神的不安などを抱える方も多いので所持は難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で混乱され、手紙を書くことも困難な状況にある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関については、エレベーターを使用しなくてもは1階へ降りれないので理解しにくく不快と思う。共用空間のスペースが手狭まなので移動は安楽であるがゆったりとした空間ではない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在らいらっく館では、一人で過ごすよりも見慣れた顔が見える方が安心できるという入居者様が多いです。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込むケース少なく残念であるが、見慣れているベッドカバーや写真など持ち込み、本人が安心出来る工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	複合施設の為、混乱する環境ではと、心配しているが、今のところ大きな問題はなく、手すりや照明等全面に設置されている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホームみのり大通西

作成日：平成 28年 4月 7日

市町村受理日：平成 28年 4月 11日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	なかなか外部に出て研修を受けるまでの人間的余裕がなく、社内研修以外は月に1回のミーティング時に入居者様対応や業務の見直し等を行っているが、今後ますますの重度化に備え、極力職員個々の差を無くす取組や全体的なレベルアップが必要と思われる。	職員間のレベル差を埋めるべく必要な取り組みは随時取り入れ、可能な限り研修の機会を設けるなど、内外問わず積極的な知識・技術のレベルアップに努める。	ミーティング時のカンファレンスに加えて、ケアの質の向上に必要なと思われる物は広く取り上げ、研修又は勉強会の機会を設けて、できる事から取り組みを開始する。それを記録に残し、新人職員にも共有できるように保管する。	1年間
2	35	防火管理やGH、SSHのコンシェルジュの体制に異動や変更があり、初動に遅れや連携不足が起こらない様に留意しなくてはならない。	定期的な訓練の実施。 複合施設の中で協力関係が築けるよう連携を強化する。不測の事態にもあわせて対応できるようになる。	訓練後に改めて動きの確認や反省などを、参加していない職員にも周知を行った。これを継続していく。連携を強化し、役割分担を日頃から話し合っていく。マニュアルが機能する様、定期的に読み合わせる機会を設けていく。	半年
3	4	町内会へ未だ加入できていない。	同町内にあるGHとして認識され、定期的に交流の機会が設けられる。	長い目で見て、これまで行ってきた働きかけを継続していく。民生委員、町づくりセンターへの相談も定期的に行い、近い将来までに地道な働きかけが実を結ぶ事を願う。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。